

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

宮城県美里町 美里町立南郷病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	5	-	ド	救 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
23,483	2,899	第2種該当	-	15：1

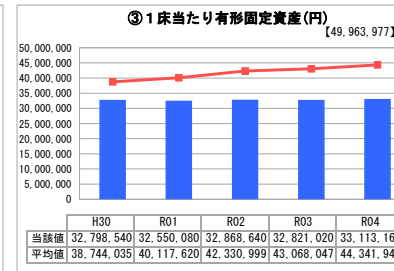
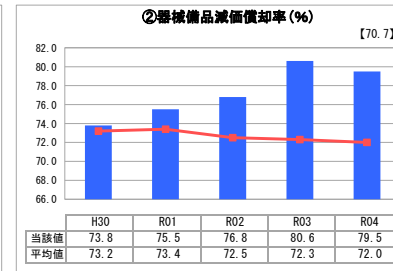
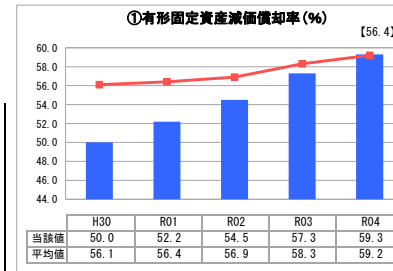
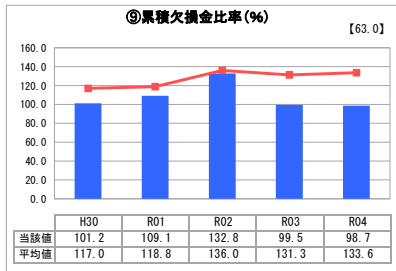
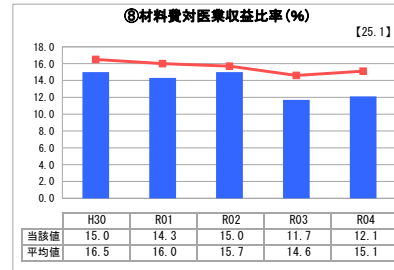
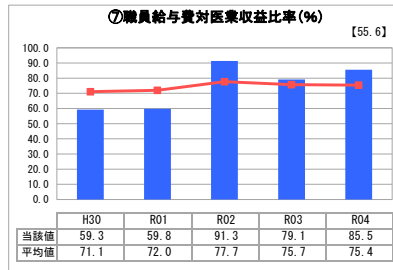
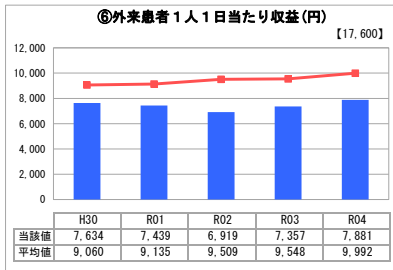
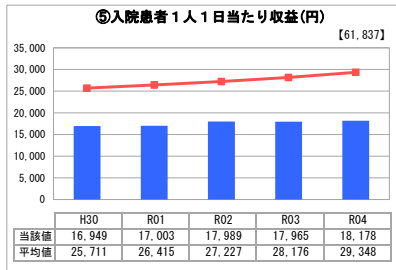
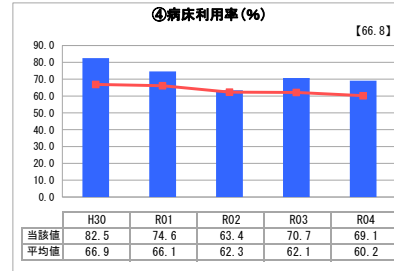
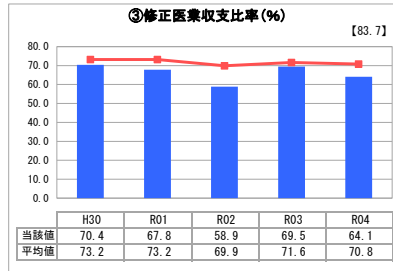
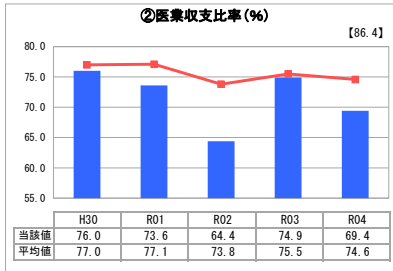
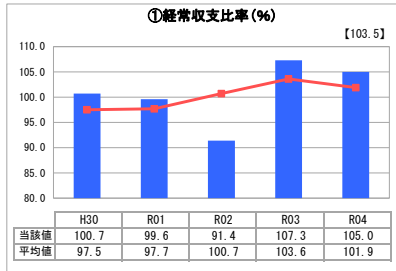
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（総核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
43	-	43

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
-	類似病院平均値（平均値）
[ ]	令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）		
機能分化・連携強化 (従来の形態・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

## I 地域において担っている役割

当院は、旧小牛田町と旧南郷町の合併により、平成18年から美里町立南郷病院と名称を改め、南郷地域（旧南郷町）唯一の医療機関（歯科診療所を除く）として、救急告示病院の役割も担っている。  
不採算地区病院の要件第2種を満たす状況にあるが、慢性疾患を抱える高齢者の定期受診や町民を対象とした人間ドック、二次救急までの対応など、地域が必要とされる医療を提供しており、地域の中核病院等と連携しながら地域医療を担っている。  
また、新型コロナウイルス感染症流行時から、診療・検査医療機関として発熱外来を設置し、新型コロナウイルス感染症患者の入院病床も確保しており、また、町の新型コロナウイルス感染症ワクチン集団接種会場としてワクチン接種を行っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

医業収益は、前年度と比較して外来収益で増加、入院収益とその他医業収益で減少している。年延患者数は、前年度と比較して入院患者と外来患者のいずれも減少という状況である。また、患者一人一日当たりの診療収入は入院と外来をいづれも増加している。患者数の減少については、新型コロナウイルス感染症の流行が終息しないことも影響しているが、人口減少など地域の情勢もあり、不採算地区病院を対象とした一般会計からの繰入金が必要不可欠となっている。  
なお、令和4年度の収益的収支における一般会計からの繰入金は、前年度より500万円増の2億2,000万円となっている。  
経常収支比率は、一般会計からの繰入金は前年度から増額したが、新型コロナウイルスワクチン接種補助金の減少などにより、前年度より2.3ポイント下がった状況となっており、必要に応じて一般会計からの繰入金を弾力的に増額することが必要な状況である。  
職員給与と費対医業収益比率が類似病院に比べ上回っている。これは患者数が減少し医業収益が減少しているものの、人員は確保しておく必要があることから生じている。

### 2. 老朽化の状況について

病院本体の建設が平成7年であり、開設から28年が経過している状況となっている。器械備品減価償却率は、昨年同様類似病院の平均値を大きく超えており、更新が進んでいない状況となっている。  
病院本体を建設した際の企業債償還が令和6年度までとなっており、資本的収支において、資金減少が大きく続く状況となっている。病院本体の企業債の償還が終了する令和6年度以降に老朽化した医療機器の更新を進めることとしている。

### 全体総括

令和4年度については、医業収益で大幅に減少した。主な要因は、新型コロナウイルスワクチン接種数の減少によるものとなっている。医業外収益は、新型コロナウイルス感染症入院病床確保補助金などにより、大幅に増加した。しかしながら、診療圏の人口減少が進んでおり、不採算地区病院としての環境がさらに厳しくなっている状況にある。不採算地区病院の要件第2種を満たす状況にあって、収入で支出が賸せず、不足する金額に対しては、一般会計からの繰入金が必要という状況である。当院が置かれている大崎医療圏での医療連携を進め、住民が安心できる医療提供体制の構築を図る必要がある。

※1 類似病院平均値（平均値）については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。